

# 藤野保史衆院議員を囲み、日本共産党についてなんでも聞く集い開催

## 総選挙後の国会の動き、野党の中での日本共産党の役割など次々質問が



上がったが、実際に働いている人のところに回っていない。公契約法が必要だ」などの話は強く印象に残りました。

国会報告もしてもらった後に、参加者から聞きたいこと、知りたいことを出していただき、それに答えても

9日の午後、市民プラザで日本共産党の藤野保史衆院議員を囲んでの集いが開かれました。いま、日本共産党を丸ごと知ってもらおうことが大事だ。そんな思いから取り組まれた集いでした。

冒頭の藤野議員の報告の中では、新潟県内の総選挙のたまたかいと結果について、公明党支持層の3割、4割の人たちが市民と野党の統一候補に投票したところがあるなど、データの的にもくわしいのにはびっくりしました。米山知事が、「多様性は力だ。それぞれの力をお互いに引き出すようなことが必要だ」とのべているとの情報も紹介されました。新潟県や知事の動きが全国的に注目されていることがよくわかりました。

「儲けをあげている企業が内部留保や自社株買いなどに儲けの大部分を使い、労働者に還元する割合が極めて少ない」「建設労務単価は5回

います。

藤野衆院議員は「日本共産党はまだまだ、一皮もふた皮もむけて成長しなければならぬ」と話しておられました。

### 人工透析患者の特養入所などで橋本議員が質問

一般質問3日目の12日、日本共産党議員団の橋本正幸議員が登壇し、医療的な措置が必要な高齢者の特別養護老人ホームなどへの入所について村山市長や八木健康福祉部長に質問しました。

この問題を上越市議会でも質問したのは橋本議員がおそらく初めてです。橋本議員は、医療的な措置が必要な人の特養への入所受け入れが可能なところはどれくらいあるかなどを質問しました。

答弁のなかで市側は、上越市内の人工透析患者が314人（このうち50代が46人、60代が108人、70代が80人、90代が53人）に上り、毎年新規患者が30人くらいずつ増えていることを明らかにしました。また、人工透析が必要な人を受け入れることが可能な施設は特養で9、老人保健施設で1、認知症グループホームで7となっていること、特養入所している1人が人工透析を受けていること、特養の入所を待機しな



【ツルリンドウ】リンドウ科のツル性多年草。漢字で「蔓竜胆」と書きます。8月～10月、薄紫色の花を咲かせます。写真は実です。山間部だけでなく、けっこう平場にもあります。吉川区小苗代にて撮影。



写真は質問する橋本正幸議員

がら在宅で人工透析を受けられる要介護3以上の人は5名となっていること、本年10月末現在、人工透析や栄養管理など特別な医療が必要な人で、特養に入所している人は187人に上っていることなども明らかにしました。

また、橋本議員の再質問で今後の対応を問われた八木健康福祉部長は、「私どもは、施設のみなさんか医療行為も必要な人の受け入れもしていただけるような環境整備をそれぞれでしていただければいいな」と思っている」と答えていました。利用者負担を増やさずに介護報酬を引き上げさせ、施設の職員を増やしていく、そういう運動が重要になってきました。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1837 2017.12.17**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

